

## 「写真から製図へ」

はじめに

みなさん、Computer Aided Design (略称 CAD) は、一度は聞かれたことがあるかと思いますが、「CADって何」と聞くと、「コンピュータを使用して、建築などの設計製図を書く」と答えられることが多いかと思いますが。

つまり、CADとは、今まで、手書きで書かれた図面を、コンピュータに入力して、同一規格の図面を幾枚も複製するという使われ方をしてきました。

一方、CADは建築業界、機械生産メーカーでは、新規のデザインを図面にすることに利用しています。手書きでは、修正・加筆をすることは大変なことでしたが、CADでは、簡単に行え、平面図を入力時に部材に三次元のデータを入力することによって、立体的に見ることが可能になります。

この講習会においては、いろいろな利用方法のある中で、製図を書くためのツールとして、CADについて行っていきたいと思います。

講習会の流れ

### 1. 「写真から製図へ」のシステムの紹介

ハードウェア

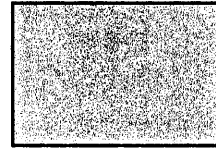
コンピュータ	Apple社製 Macintosh Centris650
CPU	モトローラ 68040 FPU付き
メモリ	52MB
ハードディスク	1 G
O.S	Mac OS 7.6.1
スキャナー	EPSON GT-650 ART2

ソフトウェア

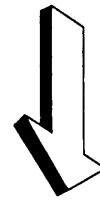
Adobe社製 Streamline	4.0 J
Adobe社製 Photoshop	4.0 J
A&A社製 Mini CAD	6.0J

### 2. 実演

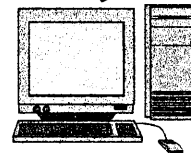
1. 写真を用意する。
2. スキャナーで写真を取り込む
3. Photoshopで、取り込んだ写真の修正  
(できるだけ、ベクトル化しやすいように、対象物の画像処理する)
4. StreamlineでPhotoshopで処理した写真をベクトル化する。
5. Mini CADにStreamlineで処理したDXFデータを取り込む
6. Mini CADでデータを修正して、完成させる。



写真の準備

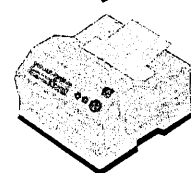
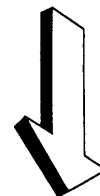


スキャナーに取り込む



コンピュータで

- ・画像処理
- ・イメージをベクトル化
- ・CADデータへ変換



プリンターやプロッターで出力